

社会思想史 I

科目責任者 竹内高明
学年・学期 1学年・1学期

I. 前 文

本講義では、18世紀から20世紀にかけて時代の転換期にさまざまな境遇で生きた、日本と世界の7人が遺した自伝を取り上げる。それぞれの時代を鋭く観察し、自らの生き方によって国や社会の在り方を鮮やかに照らし出した彼らの言葉と行動をたどりながら、現代の私たちの社会を考えていく。

各授業に先立ち、その内容に即した事前リサーチを課し、授業中にその成果を共有して話し合う。

II. 担当教員

竹内高明（基本医学）

III. 一般学習目標

日本と世界の優れた自伝を読み解きながら、筆者の生きた時代とそれに対する彼らの働きかけについて知り、彼らの生き方に表れた思想のそれぞれの時代との関わり、また時代を超える面について考える。

IV. 学修の到達目標

18世紀から現代に至るまでの世界と日本社会の変化、その渦中に生きた人々の思想と行動、またそれらが後世に与えた影響を理解し、私たちの生きる現代の日本と世界での判断と行動に活かす。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2：ディスカッション 3：グループワーク 4：実習 5：プレゼンテーション 6：その他)

社会思想史 I

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	4	21	水	4	ルソー『告白』：近代的自伝の始まり	竹内高明	1, 2
2		28	水	4	福沢諭吉『福翁自伝』：一身にして二生を経る	竹内高明	1, 2
3	5	12	水	4	田中正造『自伝』：地球規模で考え、地域で行動する	竹内高明	1, 2
4		19	水	4	ポパー『知的自伝』：反証可能性による科学の定義	竹内高明	1, 2
5	6	2	水	4	金子文子『何が私をこうさせたか』：無籍者として生きる	竹内高明	1, 2
6		9	水	4	松田道雄『私の読んだ本』：市井の小児科医として	竹内高明	1, 2
7		16	水	4	マルコムX『マルコムX自伝』：白人との対決から人種を超えた平等の希求へ	竹内高明	1, 2

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

事前課題の発表 (30%)、出席や授業に対する取り組み (10%)、期末レポート (60%) をあわせて総合的に評価する。詳細についてはシラバス (別冊) に記載する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

各授業に先立ち、扱う著作の一部のコピーを配布する。また、必要に応じて参考図書を指示し、授業中に視聴覚資料を用いる。

Ⅷ. 質問への対応方法

講義中・講義後に随時受け付けるほか、語学・人文教育部門室でも対応可。

部門室での質問の場合は、あらかじめ連絡を取る可。

竹内連絡先：t-take@dokkyomed.ac.jp

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出される課題に対しては、授業中、またLMSを通じて全体及び個別にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

各回の授業前に予習動画を視聴し，事前課題を準備する（所要時間の目安20分）。また，授業での学びを整理して以降の学習に活かす。

詳細については，シラバス別冊に記載する。

XII. コアカリ記号・番号

B-4-1)